

V 各種検定試験 試験案内

公益財団法人全国商業高等学校協会 主催

ビジネス計算実務検定試験規則

(昭和56年4月,平成9年4月,13年1月,14年5月,26年2月,27年2月,令和2年11月,令和3年11月改定,令和4年4月施行)

ビジネス計算実務検定試験

- 第1条 公益財団法人全国商業高等学校協会は、そろばんまたは電子卓上計算機（電卓と略称）を用いて、珠算または電卓の計算能力およびビジネス計算能力を検定する。
- 第2条 検定は筆記試験によって行う。
- 第3条 検定は第1級、第2級および第3級の3種とし、それぞれに普通計算部門およびビジネス計算部門を設ける。
- 第4条 普通計算部門については、次の計算用具を用いて計算する。
「珠算」……そろばんを用いる。
「電卓」……電卓を用いる。
ただし、ビジネス計算部門についてはどちらを使用してもよい。
- 第5条 検定試験は全国一斉に同一問題で実施する。
- 第6条 検定試験は年2回実施する。
- 第7条 検定試験の出題範囲および答案の記入については別に定める。
- 第8条 普通計算部門は300点満点とし、210点以上をもって合格とする。また、ビジネス計算部門は100点満点とし、70点以上をもって合格とする。両部門の合格をもって級の合格とする。
- 第9条 検定に合格した者には、合格証書を授与する。
各部門のうちいずれかの部門に合格したとき、その部門の合格証書を授与する。部門合格証書を有する者が、取得してから4回以内に実施される検定において、不足の部門を合格したときは、当該の級の合格と認め、合格証書を授与する。
- 第10条 前条による合格証書は、次の様式とする。

様式

様式

第 号
合 格 証 書
第 級
(珠算または電卓) 氏名
年 月 日生
本協会主催文部科学省後援第 回
ビジネス計算実務検定試験において
頭書の級に合格したことを証します
年 月 日
公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 氏 名 ㊟

第 号
合 格 証 書
第 級
部門名 氏名
(珠算または電卓)
年 月 日生
本協会主催文部科学省後援第 回
ビジネス計算実務検定試験において
頭書の級の部門に合格したことを証
します
年 月 日
公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 氏 名 ㊟

- 第11条 検定試験受験志願者は、所定の受験願書に受験料を添えて本協会に提出しなければならない。
- 第12条 試験委員は高等学校その他の関係職員がこれに当たる。

ビジネス計算実務検定試験施行細則

- 第1条 受験票は本協会で作成する。受験票は試験当日持参しなければならない。
- 第2条 試験規則第5条による試験日は、毎年6月の第3日曜日および11月の第2日曜日とする。
- 第3条 各級の制限時間は次のように定める。
第1級、第2級、第3級……各部門30分
- 第4条 受験料は次のように定める。(消費税を含む)
第1級 1部門につき 1,000円
第2級 1部門につき 1,000円
第3級 1部門につき 1,000円
- 第5条 普通計算部門の受験に際しては、申込時に「珠算」か「電卓」のいずれかを選択する。
- 第6条 普通計算部門については、同一級を「珠算」と「電卓」で同時に受験することはできない。
- 第7条 「珠算」および「電卓」の普通計算部門ならびにビジネス計算部門の両部門に合格すれば、当該級の「珠算」と「電卓」の両方の合格とする。
- 第8条 試験会場では試験委員の指示に従わなければならない。
- 第9条 合格発表は試験施行後1か月以内に行う。その日時は試験当日までに発表する。

部門合格の有効期限について

試験規則第8条の部門合格の有効期限について、下記の対応表のとおりとする。

検定試験実施日と有効期限対応表

部門合格した検定試験	部門合格の有効期限
第137回(平成30年11月11日)	第142回(令和3年6月実施)
第138回(令和元年6月16日)	第143回(令和3年11月実施)
第139回(令和元年11月10日)	第144回(令和4年6月実施)
第140回(令和2年6月21日)	第145回(令和4年11月実施)
第141回(令和2年11月8日)	第146回(令和5年6月実施)
第142回(令和3年6月20日)	第146回(令和5年6月実施)
第143回(令和3年11月14日)	第147回(令和5年11月実施)

※第142回検定より、検定試験規則の改定により部門合格の有効期限が変更されています。

答案の記入について

- 1 普通計算部門のうち、乗算・除算で答えに円、セント、ペンス未満の端数が生じた場合は、4捨5入すること。
- 2 ビジネス計算部門において答えに端数が生じた場合は、指示の条件に従って処理すること。
- 3 答えには1題ごとに「¥」「\$」「€」「£」のような名数の記号を記入すること。
- 4 答えの整数部分には3けたごとに「,」をつけること。
- 5 答えの訂正には消しゴムを使用してもよい。ただし、消しゴムを使用しない場合は記号および全数字を横線で消して書きなおすこと。この場合の1字訂正は認めない。